

令和3年度益田市社会福祉協議会事業報告

社会福祉法人益田市社会福祉協議会

【概要】

社会福祉協議会の使命でもある、誰もが支え合いながら安心して暮らすことのできる「ともに生きる豊かな地域社会」づくりを推進するため、本年度も、本会キャッチフレーズ『助けてよし、助けられてよし、そして共によし』のもと、本会の持つ総合力とネットワーク力を活かしながら、国がすすめる地域共生社会の実現に向けて、各事業を推進していく当初の計画も、2年以上にも及ぶ新型コロナウイルス感染拡大の長引く影響により、令和2年度に続いて、事業の中止、延期、縮小を余儀なくされる中での事業運営となった。

1. 任期満了に伴う役員・評議員の一斉改選

役員及び評議員の任期が、6月17日開催の定時評議員会の終結をもって満了することから、本会定款の規定に基づき改選手続きを行った。その結果、理事14名、監事3名、評議員28名が新たに選任された。その後、6月25日開催の理事会において、会長、副会長、常務理事が選定（再任）され、更なる適正な法人経営を目指して末成会長体制3期目がスタートした。

2. 美都・匹見地域高齢者福祉施設及び匹見保育所の次期指定管理申請

益田市から指定管理を受けて管理経営している「美都地域高齢者福祉施設」「匹見地域高齢者福祉施設」及び「益田市立匹見保育所」が、本年度で5ヶ年の指定管理期間が満了することから、次期受託に向けて益田市に対し指定申請に係る対応を進めた。その結果、令和4年度からの5年間、次期指定管理者として引き続いて受託することが決定した。

3. 新型コロナウイルス感染症への対応

各事業の実施・推進にあたっては、全職員の協力のもと、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し取り組んだ。特に入所施設では、新型コロナウイルスから利用者の命と健康を守るため、感染状況に応じて入所者家族の面会制限や職員の行動制限をお願いする中、いち早く入所者及び関係職員へのワクチン接種に対応した。高齢者福祉施設における感染者は本年度もなかったが、匹見保育所で3月末に園児・職員間で感染が拡大し、休所措置を取らざるを得なくなった点は反省し改善していく。また外部の会議や研修は感染防止のため、オンライン方式に変更され定着した。

4. コロナ特例貸付に係る相談対応

コロナ禍の影響による休業や失業等で生活資金にお困りの方を対象とした、島根県社会福祉協議会からの受託事業「生活福祉資金貸付事業」の特例貸付には、長引く感染状況により貸付期間が順次延長される中、本年度も多くの相談者が殺到し対応した。長期化する影響でなかなか生活状況・収入状況が改善されず、再貸付者も多くおられ、事業開始をされた令和2年3月からの累計貸付件数は352件、貸付総額は1億2267万円にも達した。最近では、コロナ禍に加えて原油高・物価高騰にも直面しており、継続的・長期的な視点での支援が必要となっている。

5. 生活支援体制整備事業の推進

益田市より受託し2年目となる「益田市生活支援体制整備事業」の更なる推進に取り組んだ。コロナ禍によるアウトリーチの難しさはあったものの、圏域ごとに配置した生活支援コーディネータ

一・サポーターがそれぞれの担当地域に出向き、地域ニーズの把握と情報共有、関係機関・団体等とのネットワーク強化に努めた。9月には、第2層協議体初となる「匹見圏域支え合いづくり協議体」を設置し、毎月会議を開催するとともに、新たに匹見支所広報紙「ひきみふくしだより」を隔月発行し、匹見地域の福祉情報を町内全戸へ届けるなどした。

6. 職員の定着と慢性的な人員不足

令和2年度末の定年退職者が例年になく多かったこともあり、4月1日付で大幅な人事異動を行う中でスタートした。また昨年、調理員の確保が困難を極めたことから、老人ホーム春日荘の給食調理業務を計画どおり4月26日から、法人内の他施設同様、専門業者への全面委託を開始した。しかし、本年度も家庭の都合や身体的な事情等で複数の途中退職者があり、求人への応募がなかなかない中、各職場で慢性的な人員不足が続き苦慮した。特に看護師や介護支援専門員など有資格者の退職に伴う欠員補充・人員確保の難しさがより顕著となった一年だった。

【キャッチフレーズ】

『助けてよし、助けられてよし、そして共によし』

【重点項目及び実施事業】

1. 益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づいた地域福祉の推進

(1) 第3期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進

益田市の地域福祉計画と益田市社協の地域福祉活動計画とを一体的に策定した「第3期益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」（計画期間：平成30～34年度の5年間）に基づき、関係機関・団体等と連携・協働し、基本理念である『みんなで支えあい、助けあう福祉のまちづくり』の実現を目指した。市担当課と地域に出かけてのヒアリングや事務局会議等を重ねるなど、地域課題と地区別計画の進捗状況の把握に努めた。また第4期計画の策定に向けて全地区社協へのヒアリング・意見交換等も行った。8月23日には「益田市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会」を開催し、計画の進捗状況を報告し、今後の方向性等について協議した。

(2) 益田市生活支援体制整備事業の推進

益田市から受託し2年目となる「生活支援体制整備事業」に、第1層（益田市全区域）及び第2層（日常生活圏域）にそれぞれ配置した生活支援コーディネーターを中心に、サポーターを含めオール益田市社協で事業の更なる推進に取り組んだ。今年度もコロナ禍により各地域で開催予定の会議や集いが中止される中ではあったが、可能な限り地域へ出向き、事業周知と関係者とのつながりを深めた。また定例的に開催される益田市地域ケア個別会議、地域ケア会議、地域魅力化応援隊員連絡調整会議等に参加した。益田市域における生活支援・介護予防サービスの体制整備に向けて、昨年設置した「益田市支え合いづくり協議体（第1層協議体）」は、1月31日に計画したが、市内におけるコロナ感染拡大のため開催を見送った。

匹見地域では、9月に設置した「匹見圏域支え合いづくり協議体（第2層協議体）」を毎月開催し、匹見地域における事業実施状況の報告と今後の取り組みについて協議をしたり、匹見支所広報紙「ひきみふくしだより」を隔月発行し、福祉情報の提供に努めたりした。

3月7日に開催した「生活支援体制整備事業研修会」では、広島在住の講師／酒井 保氏（ご近所クリエイション主宰 ご近所福祉クリエイター）と会場をオンラインでつないでの講演に50人が拝聴した。同日午後、匹見町で開催した同講演にも26人が参加した。

(3) ふれあいのまちづくり事業

地域における支え合い活動をより一層推進・強化するため、市内で福祉委員（福祉連絡員、福祉推進員等）制度を設けている地区社協に出向き、福祉委員の現状把握と福祉委員研修会の開催等について意見交換を行った。小地域福祉ネットワーク活動の充実を図ることを目的とし、毎年地域に出向いて実施している支え合いマップづくりの普及・啓発については、コロナ禍の影響により実施することができなかった。

(4) 地域福祉活動助成事業

地域福祉活動助成金交付要綱に基づき、先駆的・モデル的な地域福祉活動に対する助成金の申請相談・窓口対応を行った。申請状況に応じて審査会を3回開催し、審査の結果、助成決定した7団体に対し助成金を交付した。また、審査における公平性や透明性がより高まるよう、審査体制の見直しなど次年度に向けて本助成金交付要綱の一部改正について検討した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
助成団体数	7団体	4団体	10団体
助成総額	1,178,633円	680,900円	1,423,000円

(5) 地区社会福祉協議会との連携強化と活動支援

地区社協との連携・協働により更なる地域福祉活動の推進ができるよう、7月15日に、全地区の地区社協会長及び事務局長を一堂に会しての「地区社会福祉協議会会長・事務局長会議」を開催し、本会事業の説明と協力をお願いするとともに、地区社協活動と事務局強化のための財政支援を行った。また、地区社協のない美都・匹見地域においては「社協事業等説明会」を地域ごとに開催し、公民館関係者に対して事業説明と事業協力をお願いをした。

(6) 関係福祉団体との連携強化と活動支援

市内の各種福祉団体が実施する福祉活動に対し助成金を交付するなど、福祉団体との連携強化と活動支援を行った。美都・匹見支所においては、介護者の会、老人クラブ、障がい者団体、匹見地域福祉委員会等の事務局として、福祉活動の充実と組織の活性化に努めた。

(7) 福祉バス運行事業

市内の福祉団体が行う福祉活動や研修などを支援するため、福祉バスを運行した。コロナ禍のため、今年度も人数制限や市外運行を見合わせる中、感染防止対策を徹底し実施した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
延べ利用団体数	79団体	42団体	148団体
延べ利用者数	1,039名	573名	2,287名

(8) ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等が身近な場所で気軽に集うことで、閉じこもり防止や健康増進、介護予防等を促進することを目的とする「高齢者サロン」の設置促進に努めたが、今年度もコロナ禍のため、活動を見合わせるサロンが多くあった。2月28日に計画した「ふれあい・いきいきサロン研修会」も、市内の感染状況により開催を見合わせた。

① 高齢者サロン助成金

活動中の高齢者サロン（95ヶ所）のうち、申請のあった76サロンに対し、安定的な活動ができるよう、助成金を交付するなど活動を支援した。（助成総額1,205,000円）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
新規サロン件数	3件	5件	6件
継続サロン件数	73件	72件	85件
計	76件	77件	91件

② 高齢者サロン等交流会助成金

高齢者サロンが、他のサロンや団体等と交流を目的として行う事業に対し、申請のあった3サロンに対し助成金を交付した。（助成総額120,000円）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度

助成件数	3件	8件	6件
助成総額	120,000円	272,778円	230,000円

(9) ふれあい・子育てサロン事業

活動中の子育てサロン（11ヶ所）のうち、申請のあった3サロンに対し、安定的な活動ができるように助成金を交付するなど活動を支援した。（助成総額40,000円）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
新規サロン件数	0件	0件	2件
継続サロン件数	11件	11件	10件
計	11件	11件	12件

(10) 食を通じた地域の居場所づくりの推進

食を通じた地域の居場所づくりを推進するため、子ども食堂等に対して、フードバンク事業による食料支援や各種民間助成事業の活用促進などにより活動を支援した。

(11) 福祉啓発・広報活動の充実強化

①機関誌発行事業

広く市民の福祉に対する理解を促進することを目的とし、社協事業のPRや福祉団体等の活動紹介など、社協だより「はあーてい」を年6回発行し、全世帯に配布した。親しみやすくわかりやすい紙面づくりを目指して、発行の都度「広報運営委員会」を開催し、紙面構成や掲載記事の内容等について協議した。

②社協ホームページ事業

本会が開設するホームページ内で社協組織・事業を紹介するなど、積極的な情報発信・情報提供に努めた。掲載中の「新着情報」「社協ふれあい通信」「職員採用情報」「民間助成ニュース」等の記事を最新情報に適宜更新するとともに、新たに設けた生活支援体制整備事業に関するコーナーでは各地区の活動状況等について紹介した。

(12) 福祉教育の推進

①サマーボランティアスクールの開催

学校・施設等の協力のもと、中学生及び高校生を対象に夏休み期間に開催する「サマーボランティアスクール」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度に続き中止した。その代替事業として、12月19日に「学生ボランティア×赤い羽根共同募金運動」を開催し、学生にボランティア活動の場を提供した。中高生24名の参加があり、街頭募金活動への参加を通じて、共同募金についての理解を深めてもらった。

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
中学生	一校	一名	一校	一名	8校	126名
高校生	一校	一名	一校	一名	5校	45名
計	一校	一名	一校	一名	13校	171名

②福祉教育推進協力指定校への活動支援

児童・生徒の福祉への理解と関心を高め、思いやりの心を育てることを目的として活動する市内の小学校、中学校、高等学校、養護学校を支援した。申請のあった27校に対し、福祉教育助成金を交付した。（助成総額1,473,600円）

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
小学校	15校	815,100円	14校	760,900円	15校	819,300円
中学校	9校	484,800円	10校	535,100円	10校	535,400円
高等学校	2校	121,300円	2校	121,600円	3校	183,900円
養護学校	1校	52,400円	1校	52,400円	1校	52,400円
計	27校	1,473,600円	27校	1,470,000円	29校	1,591,000円

③出前手話講座の開催

益田市聴覚障害者協会（講師）とあゆみの里（手話通訳）の協力を得て、申請のあった市内の学校9校において「出前手話講座」を開催し、延べ473名の児童・生徒が受講した。

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
小学校	5校	232名	8校	385名	4校	179名
中学校	2校	199名	3校	205名	2校	186名
高等学校	2校	42名	1校	15名	1校	17名
養護学校	0校	0名	1校	20名	1校	1名
計	9校	473名	13校	625名	7校	382名

④福祉出前講座の実施

地域の福祉力を高めることを目的に、「福祉出前講座」（全24講座）を16回実施し、延べ447名の方が受講した。職員等が地域に出かけて講師役を務めた。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
実施件数	16件	16件	28件
延べ受講者数	447名	430名	671名

⑤あいサポート運動の推進

多様な障がいの特性や配慮などを理解し、日常生活の中で障がい者が困っている場面を見かけたときに声かけやちょっとした手助けを行う「あいサポーター」を普及させることを目的に、「あいサポーター研修」を7回実施し、延べ145名の方が受講した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
実施件数	7件	17件	7件
延べ受講者数	145名	374名	168名

(13) 益田市ボランティアセンターの運営

ボランティア活動への関心を高め、活動への参加促進を図ることを目的とし、益田市ボランティアセンターを運営した。ボランティア活動に関する相談・コーディネート・情報提供を行いながら、ボランティア活動の担い手となる人材の育成に努めた。

①ボランティア活動の促進・サポート

ボランティア活動に関する相談受付窓口となり、ボランティア活動希望者と活動を必要とする募集者のコーディネート役として情報提供や調整等を行った。また、ボランティアセンターが常備している高齢者疑似体験グッズやユニバーサルスポーツ用品等の貸出や、ボランティア表彰に関する情報提供や候補者・団体の推薦等を行った。

②ボランティア活動保険の加入促進

安心してボランティア活動が行えるよう、ボランティア保険の受付窓口として加入手続きを行うとともに、加入助成を行った。本年度もコロナ禍の影響によりボランティア行事・活動の中止等が多かったことから、保険加入者数は低調だった。

		令和3年度	令和2年度	令和元年度
活動保険	個人	216名	199名	181名
	団体 (延べ人数)	59団体 (1,614名)	68団体 (1,788名)	86団体 (1,771名)
行事用保険	加入件数	19件	16件	62件
	(延べ人数)	(1,028名)	(370名)	(2,443名)

③ボランティアに関する広報・啓発

ボランティアに関する広報・啓発のため、社協だよりの発行に合わせて「まずだボランティア情報」を2回作成し、全戸配布した。また、各種民間助成金情報をまとめた「民間助成ニュー

ース」を社協ホームページに適宜掲載するなど、ボランティアに関する情報提供に努めるとともに、必要に応じて相談対応を行った。

④益田市ボランティア連絡会の運営

益田市ボランティア連絡会の事務局として、適正な団体事務と事業運営に取り組んだ。総会、役員会、交流会は開催したものの、研修会についてはコロナ禍のため本年度も開催を見合わせた。

⑤ボランティア研修会の開催

2月3日に計画した「益田市ボランティアセンター研修会」の開催は、市内における新型コロナウイルス感染拡大により中止した。

(14) 災害発生に備えた被災者支援活動の推進

大規模災害発生時に被災者支援活動が適切に実行できるよう、平常時から備えておく必要があるため、10月29日、益田青年会議所と災害ネットワーク協定をそれぞれ締結している益田圏域3社協が一堂に会して連絡会議を開催し、協定内容を確認するとともに連携強化を図った。なお、益田市防災訓練に合わせて行う予定だった「益田市災害ボランティアセンター設置・運営訓練」は、コロナ禍により防災訓練の開催が見送られ実施しなかった。

(15) 共同募金配分金事業の実施

共同募金の配分助成を受けて、福祉教育協力校活動費、地域育成・援助活動費、歳末たすけあい見舞金等に活用し、地域福祉の更なる推進に取り組んだ。

(16) 島根県共同募金会益田市共同募金委員会の運営と共同募金運動の推進

島根県共同募金会益田市共同募金委員会の事務局として共同募金運動に協力をした。本年度もコロナ禍によりほとんどのチャリティーイベントが中止され心配された募金額も、関係者の多大なご尽力と市民の皆様のご協力により減額は少額にとどまった。

〔共同募金運動実績額〕

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
一般募金	13,739,858円	13,847,156円	14,229,524円
歳末たすけあい募金	3,693,752円	3,761,195円	4,746,293円
計	17,433,610円	17,608,351円	18,975,817円

(17) 日本赤十字社島根県支部益田市地区の運営と事業推進

日本赤十字社島根県支部益田市地区の事務局として日本赤十字社事業に協力をした。コロナ禍で心配された活動資金（会費・寄付金）については、前年度実績を下回ったものの、市民や関係者の多大なご協力とご尽力により多額の資金が寄せられた。

〔日本赤十字社活動資金実績額〕

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
一般会費	10,841,832円	10,959,788円	10,949,419円
法人会費	778,000円	770,000円	767,000円
計	11,619,832円	11,729,788円	11,716,419円

(18) 益田市ともしび基金運営協議会の運営

益田市ともしび基金運営協議会の事務局として、関係機関との連携・協力により、募金箱の設置（11ヶ所）等により善意の輪を募った。取扱規程に基づき、市内の交通遺児（1名）、災害遺児（1名）、要保護児童・生徒（22名）、施設等に一時避難したDV被害者が養育する子（2名）の計26名に配分金を交付し、該当する子どもたちの生活を支援した。

(19) 益田市社会福祉大会の開催

11月15日に、益田市総合福祉センターを会場に「第39回益田市社会福祉大会」を開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本年度も規模・内容を縮小し、表彰式を中心とする式典のみの開催の中、42名の参加があった。式典において、本市の社会福祉の発

展に寄与された個人及び団体に対し、益田市社会福祉協議会会長表彰及び感謝状（被表彰者／益田市社会福祉協議会会長表彰28名、感謝状4団体・3名）を贈呈した。また、しまね県民福祉大会の中止に伴い、島根県知事感謝及び島根県社会福祉協議会会長表彰の伝達も併せて行った。表彰後、令和3年度少年の主張益田市大会において最優秀賞を受賞された生徒の発表を、DVD上映により視聴した。

(20) 各種表彰候補者の推薦

全国社会福祉協議会会長表彰、島根県社会福祉協議会会長表彰・感謝、島根県知事感謝など、社会福祉法人・福祉施設、関係機関・団体等に各種表彰候補者の推薦を依頼するとともに、申請があり表彰対象となる候補者の推薦書を依頼団体に提出した。

(21) 益田市民余芸大会の開催

山陰中央新報社、益田市、益田市社協主催による年末恒例の「年忘れ益田市民余芸大会」は、本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

(22) 益田市戦没者合同追悼式の開催

益田市との共催、益田市遺族会の協力のもと、10月29日、グラントワ小ホールにおいて「令和3年度益田市戦没者合同追悼式」を開催した。3年に1回開催する本合同追悼式への遺族の方の参加は減少傾向にある中、181名（うち遺族113名）の方が参列し、戦争により犠牲となった慰霊に対し謹んで追悼の誠を捧げるとともに、改めて世界の恒久平和を誓った。

(23) 友愛メール事業による見守り活動 [美都支所]

美都郵便局との協力事業として、希望する一人暮らし高齢者に対し、季節のお知らせ等を掲載した友愛メール「お元気ですか」を毎月1回郵送し、配達する郵便局員による一声運動により安否確認に努めた。（月平均発送者数90.9名、延べ発送者数1,091名）

(24) 美都地域子育てサロンの開設 [美都支所]

子育てをする親の不安や負担軽減を図るとともに、子育ての喜びや夢を持ち続けられるよう、子育てサポーター等の協力のもと、都茂・東仙道地区の2会場で「美都地域子育てサロン」を開催した。コロナ禍の影響により3回の開催、延べ68名の参加にとどまった。

(25) 子育て用品貸出事業 [美都支所]

常備しているチャイルドシートやジュニアシート等子育て用品を貸与することにより、子育て世代や子育てに関わる方の経済的負担を軽減し、安心して子育てができる環境づくりに努めた。

(26) 安心♡お買い物宅配サービス「匹見らくらく便」事業・「らくらくサロン」の開設 [匹見支所]

安心お買い物宅配サービス「匹見らくらく便」事業では、登録19世帯から注文のあった品を延べ176回（前年度156回）利用者宅へ届けた。また「らくらくサロン」を3回開設（大雨のため1回中止、前年度3回）し、自らの目で直接商品を見ながら買い物を楽しんでいただくとともに、利用者同士の交流を図った。

(27) 町民チャリティー発表会の開催 [匹見支所]

匹見地域福祉委員会との共催による「第4回町民チャリティー発表会 in ガレージ」を11月20日に匹見支所車庫において開催し、約130名の参加があった。フォト・かかしコンテストや手作り作品展示販売などを実施し、歳末たすけあい募金活動に協力した。

(28) 小型除雪機貸出事業 [匹見支所]

冬期間における高齢者世帯や通学路の安全確保のため、共同募金配分金を活用して整備した小型除雪機（所有台数2台）を延べ1回（前年度3回）貸し出した。

2. 関係機関・団体等との連携・協働による総合的な相談支援体制の拡充

(1) あんしん生活支援センターによる包括的支援体制の充実・強化

市民の身近な総合相談窓口として、地域住民から寄せられるあらゆる生活・福祉課題を真摯

に受け止め、行政、民生児童委員、関係機関・団体等との連携・協働を図りながら、その課題解決と予防に取り組んだ。新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し対応する中、センター全体で1,025件（月平均85.4件）の相談が寄せられた。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
相談件数	1,025件	919件	350件
月平均相談件数	85.4件	76.6件	29.2件

(2) 総合相談事業

①ふれあい福祉相談

毎月第2金曜日、「ふれあい福祉相談」を計11回開設した。一般相談には91件（月平均7.6件）の相談があった。（前年度相談件数74件）

②法律相談

毎月第2金曜日、「法律相談」を計11回開設し、30件の相談があった。美都地域と匹見地域でも1回ずつ法律相談を開設し、それぞれ1件の相談があった。（前年度相談件数35件）

③老人・ひとり親相談

毎月2回（第2・4金曜日）、「老人・ひとり親相談」を計22回開設した。社協だよりや市の告知端末放送等を通じて広く周知はするものの、老人相談2件、ひとり親相談0件と相談件数は年々低調となっている。（前年度／老人相談2件、ひとり親相談0件）

④電話訪問

民生児童委員協議会女性部との協力事業として、毎週水曜日、一人暮らしの高齢者など登録者57名に対して電話をし、安否確認や相談対応を行った。電話内容では、「日々の生活」に不安を抱えている方が一番多く、全体の7割近くを占めた。（前年度登録者数61名）

(3) 生活困窮者自立相談支援事業〔市受託事業〕

益田市から「自立相談支援事業」と「家計改善支援事業」の委託を受け、生活保護に至る前の生活困窮者に対する第2のセーフティネットとして、生活困窮者の自立の促進を図った。相談件数は、コロナ禍の影響もあり年々増加している。収入や生活費に関する相談が多くを占める中、食べるものがないとの相談も数多く寄せられた。また「生活困窮者支援調整会議」を毎月開催し、支援計画の適切性の協議や終結時の評価等について協議した。「生活困窮者自立相談支援事業講演会」を1月29日に計画したが、コロナ禍により開催を中止した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
相談件数	316件	178件	133件
プラン作成・決定件数	52件	42件	43件

※自立相談支援を必要としないコロナ関連の相談を除く

(4) 福祉資金貸付事業

コロナ禍の影響により、本年度も経済的な支援を必要とする相談が延べ340件にも上り、そのうち211件に対し福祉資金の貸付を行った。本年度も生活福祉資金貸付事業のコロナ特例貸付に係る相談が大半を占めた。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
相談件数	340件	352件	110件
貸付件数	211件	225件	55件

①民生融金

民生児童委員の協力を得て、低所得者に対し生活に緊急一時的に必要な資金を貸し付けた。そして、貸付者のケースを生活困窮者自立支援事業につなぎ、一体的・継続的な支援を行った。

資金種別	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
緊急生活費	22件	220,000円	16件	155,000円	17件	170,000円
食生活費	5件	230,000円	6件	280,000円	9件	340,000円

福祉費	0件	0円	0件	0円	0件	0円
住宅費	4件	247,000円	0件	0円	4件	300,000円
介護費	0件	0円	0件	0円	0件	0円
修学費	0件	0円	1件	100,000円	3件	270,000円
療養費	0件	0円	0件	0円	0件	0円
災害費	0件	0円	0件	0円	0件	0円
計	31件	697,000円	23件	535,000円	33件	1,080,000円

②生活福祉資金〔県社協受託事業〕

島根県社協の委託を受け、低所得者、障がい者または高齢者に対し必要な資金を貸し付ける生活福祉資金貸付事業を行った。本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等で一時的な生活資金にお困りの方を対象とした「緊急小口資金」及び「総合支援資金（生活支援費）」の特例貸付への相談が多く寄せられ、貸付件数165件、貸付総額5,659万円にも及んだ。事業開始された令和2年3月25日からの累計は、貸付件数352件、累計貸付総額1億2267万円にも上る。コロナ禍の収束が見通せない状況下で、継続的・長期的な支援が必要な状況にあることは言うまでもない。

コロナ特例貸付を除いた通常の貸付は、15件、約590万円（前年度／17件、約910万円だった）。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
貸付件数	180件	202件	22件
貸付金額	62,497,899円	74,781,000円	15,421,000円

〔上記のうちコロナ特例貸付〕

資金種別	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
緊急小口資金	60件	11,330,000円	118件	21,650,000円	2件	400,000円
総合支援資金	65件	26,500,000円	59件	40,460,000円	0件	0円
〃 再貸付	40件	18,760,000円	8件	3,570,000円	0件	0円
計	165件	56,590,000円	185件	65,680,000円	2件	400,000円

〔コロナ特例貸付以外の貸付〕

資金種別	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
緊急小口資金	3件	256,000円	3件	187,000円	2件	200,000円
総合支援資金	3件	470,899円	5件	1,149,000円	0件	0円
福祉資金	3件	1,854,000円	2件	2,458,000円	2件	4,519,000円
教育支援費	2件	1,950,000円	3件	4,200,000円	6件	8,105,000円
就学支度費	4件	1,377,000円	4件	1,107,000円	10件	2,197,000円
不動産担保型生活資金	0件	0円	0件	0円	0件	0円
計	15件	5,907,899円	17件	9,101,000円	20件	15,021,000円

(5) 入居債務保証支援事業

島根県社協との連携・支援のもと、賃貸住宅への入居にあたり保証人が確保できない人を支援する入居債務保証支援事業を行った。「入居債務保証支援事業運営委員会」を3回開催し、本事業における利用の可否について審議した。本年度相談のあった11件のうち3件と新規契約を、6件と更新契約を締結し、本事業の実利用者数は19名となった。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
相談件数	11件	9件	10件
実利用者数	19名	12名	16名

※上記利用件数には継続分を含む。

(6) フードバンク事業

食べるものがなく困っている人への緊急支援を行うフードバンク事業を実施した。市の告知端末放送やポスター掲示等による事業周知を適時行い、寄贈協力者190件から提供していただいた2,599品の食料品の中から、延べ148件(支援内訳:一般世帯53件、高齢者世帯21件、障がい者世帯30件、ひとり親世帯25件、生活保護世帯15件、その他4件)の食料支援を行った。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
支援件数	148件	77件	110件
寄贈者数	190件	122件	102件
寄贈品数	2,599件	1,356件	2,385件

(7) 日常生活自立支援事業 [県社協受託事業]

島根県社協からの受託事業として、判断能力に不安のある高齢者、知的障がい者、精神障がい者など利用契約者87名に対し、専門員2名、生活支援員21名による福祉サービスの利用援助、日常的金銭の管理、書類等の預かりサービスを延べ1,826回提供した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
生活支援専門員数	2名	2名	2名
生活支援員数	21名	23名	23名
問合せ・相談件数	1,762件	1,786件	1,656件
実利用者数	87件	80件	82件
新規契約件数	13件	13件	17件
解約件数	6件	15件	10件
支援回数	1,826回	1,771回	1,838回

(8) 法人後見事業

法人後見事業に取り組み、法人後見受任ケースの適正な財産管理と身上監護に努めた。「法人後見受任審査等運営委員会」を開催し、新規受任案件に係る利用の可否について審査を行った。また、毎月開催される「益田・鹿足成年後見センター定例会」に参加した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
新規受任件数	2件	6件	3件
終了件数	3件	1件	0件
継続受任件数	11件	9件	6件
年度末受任件数	13件	14件	9件

(9) 市民後見推進事業 [市受託事業]

益田市の委託を受けて、市民後見人推進事業を実施し、市民後見人の養成や事業の周知・啓発に努めた。本事業の円滑・適切な運営と権利擁護の推進を図るため、「市民後見推進事業運営委員会」を年4回開催し、事業推進について協議した。

権利擁護人材育成公開講座では、「市民後見人養成講座」(基礎コース5回、フォローアップコース5回)を10回開催し、15名の方が修了した。「市民後見人スキルアップ講座」は4回開催し、延べ68名が受講。「福祉公開講座」は5回開催し、延べ49名の参加があった。

10月30日には、益田・鹿足成年後見センターとの共催により「成年後見制度啓発講演会」を開催し、市民後見人養成講座修了生13名を含む関係者29名が参加した。講師には、江津市相談支援センターえん代表の齊藤 建氏をお迎えし、高齢化する障がい者親子を支える仕組み・地域づくりについて講演をいただいた。本制度の啓発のため、この講演会の様子は、後日ひとまるビジョンで繰り返し放映していただいた。

3. 指定管理事業・介護サービス事業等の適正な管理経営

(1) 指定管理事業

①益田市総合福祉センター

益田市から「益田市総合福祉センター」の指定管理を受けて、老人福祉センター及び母子・父子福祉センターとして、また地域福祉の活動拠点として、その機能が十分発揮できるよう、適正な運営管理に努めた。貸館事業では、新型コロナウイルスの感染状況に応じて部屋ごとの許容定員を定めるなど、利用者に感染防止対策の徹底を呼び掛けながら実施した。老人・母子講座（園芸教室、社交ダンス教室、囲碁教室、健康教室、手編み教室、習字教室）の開催は、本年度も市内における新型コロナウイルスの感染状況に応じて開催日を調整し、予定の11回から7～10回に縮小した。そのほか、老人・ひとり親相談等を行った。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
年延べ利用件数	1,469件	1,387件	1,515件
年延べ利用者数	16,075名	16,497名	23,857名
日平均利用者数	44.6名	45.8名	66.2名

②益田市立匹見保育所〔匹見支所〕 … 職員9名（正規4、嘱託4、パート1）

益田市の指定管理を受けて、匹見地域における唯一の保育所として適正な管理運営に努めるとともに、円滑な保育の推進と児童の健全育成を図った。本年度もコロナ禍のため、行事を縮小しながらの運営となったが、保育指針「自然を通して生きていく力を育てる」に基づき、季節の野菜づくりや他保育所との交流保育による自然体験などを実施した。引き続き感染防止対策の徹底に取り組んでいたところだったが、3月末から園児や職員等への感染が一気に広がったことに伴い、3月31日から休所措置を取ることとなった。

また、本年度で5ヶ年の指定管理期間が満了することから、次期受託に向けて公募による指定申請に応募した結果、令和4年度からの5年間、指定管理者として受託することが決定した。

厚生労働省が2月から創設した「保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業」の補助金を活用し、職員の処遇改善を実施した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
通常保育			
月平均利用者数	18.1名	14.4名	15名
年延べ利用者数	4,185名	3,557名	3,579名
一時保育延べ利用者数	19名	28名	13名
休日保育延べ利用者数	4名	13名	13名
延長保育延べ利用者数	6名	81名	104名
低学年受入延べ利用者数	443名	697名	567名
年間延べ利用者数合計	4,647名	4,282名	4,159名

③美都地域高齢者福祉施設〔美都支所〕

益田市から美都地域高齢者福祉施設に係る指定管理を受けて、益田市立美都デイサービスセンター、益田市立特別養護老人ホーム美寿苑、益田市立老人ホーム春日荘及び付帯事業を実施し、適正な管理運営に努めた。（詳細は別途記載）

また、本年度で5ヶ年の指定管理期間が満了することから、次期受託に向けて指定申請に係る対応を進めた結果、令和4年度からの5年間、指定管理者として受託することが決定した。

④匹見地域高齢者福祉施設〔匹見支所〕

益田市から匹見地域高齢者福祉施設に係る指定管理を受けて、益田市立特別養護老人ホームもみじの里、益田市立匹見高齢者生活福祉センターふれあいの園及び付帯事業を実施し、適正な管理運営に努めた。（詳細は別途記載）

また、美都地域高齢者福祉施設同様、本年度で5ヶ年の指定管理期間が満了することから、次期受託に向けて指定申請に係る対応を進めた結果、令和4年度からの5年間、指定管理者として受託することが決定した。

（2）在宅・施設福祉サービス事業

高齢者や障がい者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活が送り続けられることができるよう、介護サービス事業や障害福祉サービス事業を実施した。事業実施に当たっては、本所・介護事業部による各施設・事業所への定期的な巡回点検・指導等により、適正な管理運営と質の高いサービス提供に努めた。

また、従来の介護職員処遇改善加算による介護職員への一時金支給のほか、厚生労働省が2月から創設した「介護職員処遇改善支援補助事業」の補助金を活用し、介護職場における職員の処遇改善を実施した。

<本所>

本所における全介護事業所の介護保険事業収入総額は、前年比99.5%、33万円の減収となった。施設への入所志向が高まる中、訪問入浴介護事業における延べ利用者数が本年度も減少し、前年比94.1%、91万円の減収となった。訪問介護事業も減少傾向にあったが、他事業所の事業縮小等に伴う利用者の移行希望もあり、前年比106.5%、166万円の増収となった。

①指定居宅介護支援事業所 … 職員5名（正規4、パート1）

要介護者等からの相談・依頼を受けて、適切な介護サービス等が利用できるように、サービス事業所や関係機関と連携・調整し、居宅サービス計画（ケアプラン）の作成等を行った。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	149.1名	155.4名	136.7名
延べ利用者数	1,789名	1,865名	1,640名

②指定訪問介護事業所 … 職員11名（正規2、嘱託1、パート8）

身体介護や生活援助が必要な家庭にホームヘルパーを派遣し、食事・排泄介助、調理、洗濯等のサービスを提供した。また、サテライトとなる匹見訪問介護事業所の適正管理に努めた。

○訪問介護事業（介護保険）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	69.1名	60.5名	58.8名
月平均訪問回数	565.1回	558.2回	590.8回
月平均訪問時間数	600.3時間	528.0時間	516.2時間
延べ訪問回数	6,781回	6,698回	7,089回
延べ訪問時間数	7203.3時間	6335.4時間	6193.8時間

○障害福祉サービス事業

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	4.8名	6.0名	6.0名
延べ訪問回数	58回	72回	72回
延べ訪問時間数	624時間	656.8時間	697時間

③指定訪問入浴介護事業所 … 職員8名（正規1、パート7）

益田市内唯一の訪問入浴介護事業所として、看護職員1名と介護職員2名が訪問入浴専用車両で利用者宅を訪問し、専用の浴槽で入浴、洗髪、健康チェックなどのサービスを提供した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	20.2名	20.0名	25.3名
月平均利用回数	92.1回	97.8回	114.6回
延べ利用者数	1,105名	1,174名	1,375名

上記介護保険事業のほか、令和2年10月から益田市より委託を受けて実施している「益田市障がい者等訪問入浴サービス事業」に、延べ75名の利用があった。

④高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）生活援助員派遣事業〔市受託事業〕

益田市の委託を受けて、明見団地・市営須子住宅のシルバーハウジング入居者（36世帯）と県営久城団地のシルバーハウジング入居者（8世帯）に対し、生活援助員が毎週2回自宅を訪問し、安否確認や一時的な家事援助、生活指導・相談等を行った。

また、毎週月・水・木曜日、明見団地内の市営須子住宅集会所において、コロナ感染対策徹底のもと高齢者の集いを実施し、生活援助員協力員によるレクリエーションや生きがい活動を行った。

⑤はつらつ介護者ふれあい支援サービス事業〔市受託事業〕

介護者の心身のリフレッシュを目的とする、益田市はつらつ介護者ふれあい支援サービス事業「介護者ふれあい交流会」は、昨年につき、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

⑥福祉用具貸与事業

介護用ベッドや車いすなど、必要な世帯に貸し出し、介護者の負担軽減と利用者の福祉増進を図った。

<美都支所>

美都支所における全介護事業所の介護保険事業収入総額は、コロナ禍の影響を受けて、本年度も前年比98.3%、444万円の減収となった。特に、美都デイサービスセンターの通所介護事業が前年比83.2%、750万円の減収、美都町ホームヘルパーステーションの訪問介護事業は春日荘入所者の利用が大幅に減少し、前年比87.4%、417万円の減収となった。

①美都町居宅介護支援事業所 … 職員2名（正規2）

要介護者等からの相談・依頼を受けて、適切な介護サービス等が利用できるように、サービス事業所や関係機関と連携・調整の上、居宅サービス計画（ケアプラン）の作成等を行った。また、益田市の委託を受け、要介護認定調査事業（46件）に取り組んだ。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	41.5名	38.6名	41.9名
延べ利用者数	498名	463名	503名

②美都町ホームヘルパーステーション … 職員5名（正規1、嘱託1、パート3）

身体介護や生活援助が必要な家庭にホームヘルパーを派遣し、食事・排泄介助、調理、洗濯等のサービスを提供した。利用者の入院・入所等により利用者が減少した。

○訪問介護事業（介護保険）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	19.4名	21.9名	25.9名
月平均訪問回数	194.6回	188.6回	206.1回
月平均訪問時間数	146.8時間	150.4時間	174.5時間
延べ訪問回数	2,335回	2,264回	2,475回
延べ訪問時間数	1761.3時間	1805.6時間	2094.5時間

○障害福祉サービス事業

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
--	-------	-------	-------

月平均利用者数	2.0名	1.9名	0.7名
延べ訪問回数	86回	69回	21回
延べ訪問時間数	64.0時間	114.0時間	38.0時間

③益田市立美都デイサービスセンター … 職員10名(正規3、嘱託4、パート3)

在宅での生活に支障のある要支援・要介護高齢者に対し、介護、入浴、食事等のサービスや介護予防に効果のあるサービスなどを提供した。春日荘入所者をはじめとするコロナ禍による利用控えなども影響し、利用実績が年々減少傾向にある中、4月1日から事業所種別を通常規模型通所介護から地域密着型通所介護(利用定員18名)へと小規模運営に移行した。新たに設置した運営会議を開催し、より一層利用者に寄り添ったサービス提供と満足度の向上に努めた。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
日平均利用者数	10.7名	11.6名	16.6名
月平均利用回数	274.6回	297.7回	426.8回
延べ利用者数	3,295名	3,572名	5,122名

④益田市立特別養護老人ホーム美寿苑 … 職員32名(正規10、嘱託5、パート17)

特別養護老人ホームの特性や機能を活かし、入居者・利用者の立場に立った質の高いサービス提供に努めるとともに、地域の協力を得ながら、適正かつ効率的な施設経営に努めた。地域貢献事業と一環として実施してきたサロン「暖暖茶の間」は、コロナ禍のため本年度も休止をした。

○介護老人福祉施設〔入所定員30名〕

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	30.0名	30.2名	30.1名
定床利用率	96.9%	95.5%	99.1%
平均介護度	4.34	4.35	4.30

○短期入所生活介護事業(ショートステイ)〔利用定員6名〕

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	13.7名	14.1名	16.3名
延べ利用日数	1,754日	1,700日	1,625日
定床利用率	80.1%	77.6%	75.2%
平均介護度	2.49	2.24	2.17

⑤益田市立老人ホーム春日荘 … 職員23名(正規9、嘱託8、パート6)

養護老人ホームの特性や機能を活かし、入居者一人ひとりが安全で安心した生活が送られるよう、地域住民の協力のもと、施設の適正な管理経営に努めた。また外部サービス利用型特定施設として、入居者のニーズや心身の状態に応じて、訪問介護や通所介護等の介護保険サービスの利用を促進した。

調理員不足により開所以来続けてきた手作り給食の提供が困難になったことから、4月26日から法人内の他施設同様、給食調理業務を専門業者・日清医療食品株式会社へ全面委託した。

○養護老人ホーム〔入所定員50名〕

○外部サービス利用型特定施設

月平均利用者数	令和3年度	令和2年度	令和元年度
特定施設	31.0名	34.0名	33.8名
訪問介護	31.0名	34.0名	27.8名
通所介護	0名	1.5名	5.3名
福祉用具貸与	17.9名	19.2名	17.3名

⑥美都地域包括支援センター〔市受託事業〕 … 職員2名（正規2）

益田市からの委託を受け、地域包括ケアシステムの構築を目指して、総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、介護予防ケアマネジメント業務に取り組んだ。また「美都地域ケア会議」を毎月開催し、個別事例の検討を重ねる中、地域課題の把握とその対応策について協議した。そのほかにも、高齢者夫婦世帯の見守りネットワーク・生活支援等について検討するなどした。

また、相談者・利用者の利便性の向上と介護予防・生活支援サービス等の充実を目指して、4月から事務所を、本会美都支所が所在する益田市美都総合支所庁舎内に移転した。益田市美都総合支所及び本会美都支所との更なる連携強化により、センターの機能充実を図った。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
介護予防ケアマネジメント			
月平均利用者数	19.8件	19.5件	23.0件
延べ利用者数	237件	234件	277件
総合相談支援業務			
実相談者数	86名	68名	67名
延べ相談件数	402件	298件	241件
虐待通報件数	0件	2件	0件
虐待認定件数	0件	1件	0件

⑦配食サービス事業〔市受託事業〕

益田市の受託事業として、毎週火・金曜日（週2回）、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯で、自分で調理することが困難な利用者に、配食ボランティアの協力を得て弁当を配り、安否確認を行った。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	14.2名	16.2名	11.4名
月平均利用回数	95.7回	104.7回	67.3回
延べ利用者数	1,148名	1,256名	807名

⑧外出支援サービス事業（移送サービス）〔市受託事業〕

益田市からの委託を受け、寝たきりや重度障害のため、自力での移動が困難な方を病院等へ移送した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	0.1名	0名	0.2名
月平均利用回数	0.1回	0回	0.2回
延べ利用者数	1名	0名	2名

⑨福祉用具貸与事業

必要な世帯に、常備している介護用ベッド、エアーマット、車いす、杖等の介護機器や、チャイルドシート、ジュニアシート等の子育て用品の貸し出しを行った。また、共同募金助成金を活用し、福祉用具の消毒・修繕を行った。

<匹見支所>

匹見支所における全介護事業所の介護保険事業収入総額は、前年比102.0%、379万円の増収となった。もみじの里が、短期入所はコロナ禍の影響を受けたものの、全体的には前年比101.7%、253万円の増収となったほか、訪問介護事業でも、前年比121.8%、99万円の増収となった。

①匹見指定居宅介護支援事業所 … 職員2名（正規1、嘱託1）

要介護者等からの相談・依頼を受けて、適切な介護サービス等が利用できるように、サービ

ス事業所や関係機関と連携・調整の上、居宅サービス計画（ケアプラン）の作成等を行った。
また、益田市の委託を受け、要介護認定調査事業（56件）に取り組んだ。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	38.7名	40.3名	38.3名
延べ利用者数	464名	483名	460名

②匹見訪問介護事業所 … 職員5名（嘱託2、パート3）

本所・益田市社会福祉協議会指定訪問介護事業所のサテライト（出張所）として、本所事業所の一体的な管理運営のもと、適切なサービス提供に努めた。

○訪問介護事業（介護保険）

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	19.6名	15.6名	14.8名
月平均訪問回数	114.8回	90.9回	92.2回
月平均訪問時間数	93.3時間	70.9時間	78.0時間
延べ訪問回数	1,378回	1,091回	1,106回
延べ訪問時間数	1119.5時間	851.7時間	936.1時間

○障害福祉サービス事業

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	1.0名	1.5名	2.0名
延べ訪問回数	246回	438回	581回
延べ訪問時間数	246.0時間	491.5時間	707.0時間

③匹見指定もみじ通所介護事業所（もみじデイ） … 職員9名（正規3、嘱託4、パート2）

毎週月・火・水・金曜日、もみじの里内においてデイサービス事業を開所した。コロナ禍による利用控え等もあり利用者数が減少した。また、利用登録者数の増加に伴い、2月から利用定数を15名から18名に増員変更をした。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
日平均利用者数	10.4名	10.5名	11.4名
月平均利用回数	32.2回	34.3回	30.1回
延べ利用者数	2,108名	2,190名	2,362名

④匹見指定通所介護事業所（ふれあいデイ） … 職員9名（正規3、嘱託4、パート2）

毎週木曜日、ふれあいの園内においてデイサービス事業を開所した。また、利用登録者数の増加に伴い、2月から利用定数を15名から18名に増員変更をした。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
日平均利用者数	12.5名	10.7名	8.8名
月平均利用回数	14.3回	13.1回	10.9回
延べ利用者数	660名	545名	439名

⑤益田市立特別養護老人ホームもみじの里 … 職員29名（正規15、嘱託9、パート5）

入居者・利用者の立場に立った質の高いサービス提供と、適切な施設経営に努めた。

○介護老人福祉施設〔入所定員30名〕

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	30.3名	30.2名	30.3名
定床利用率	97.9%	95.3%	96.1%
平均介護度	4.25	4.27	4.12

○短期入所生活介護事業（ショートステイ）〔利用定員8名〕

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
--	-------	-------	-------

月平均利用者数	15.3名	17.1名	17.6名
延べ利用日数	1,532日	1,698日	1,958日
定床利用率	52.5%	58.2%	66.9%
平均介護度	2.02	2.06	2.25

⑥益田市立匹見高齢者生活福祉センターふれあいの園 … 職員7名(嘱託1、パート6)

高齢により独立した生活に不安のある方の生活の場として、地域住民やボランティア団体等の協力のもと、匹見高齢者生活福祉センター(入所定員12名)の適正な管理運営に努めた。

また、毎週木曜日には、匹見指定通所介護事業所(ふれあいデイ)として、デイサービス事業を実施した。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	6.7名	8.0名	8.9名
定床利用率	55.6%	66.7%	74.3%

⑦匹見地域包括支援センター〔市受託事業〕 … 職員2名(正規2)

益田市からの委託を受け、地域包括ケアシステムの構築を目指して、総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、介護予防ケアマネジメント業務に取り組んだ。また「匹見地域ケア会議」を毎月開催し、個別事例の検討を重ねる中、地域課題の把握とその対応策について検討した。整理した地域課題に沿って、生活支援体制整備事業についての勉強会を開催し、匹見地域ケア会議との連動性について意識付けを図った。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
介護予防ケアマネジメント			
月平均利用者数	42.8件	37.3件	30.9件
延べ利用者数	513件	448件	371件
総合相談支援業務			
実相談者数	64名	71名	60名
延べ相談件数	219件	203件	195件
虐待通報件数	0件	1件	1件
虐待認定件数	0件	1件	1件

⑧配食サービス事業〔市受託事業〕

益田市の受託事業として、毎週水曜日(月4回)、民生児童委員・配食ボランティアの協力を得て、一人暮らし高齢者または高齢者のみ世帯で、自分で調理することが困難な利用者宅を訪問し、調理ボランティアが作った弁当を届け、安否確認を行った。

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
月平均利用者数	27.2名	27.2名	19.3名
月平均利用回数	98.3回	98.2回	64.3回
延べ利用者数	1,180名	1,179名	771名

⑨福祉用具貸与事業

必要な世帯に、常備している介護用ベッド、車いす等を貸し出した。

4. 社会福祉法人等との連携・協働による地域公益活動の推進

(1) 益田市社会福祉法人連絡会の運営

令和元年11月28日に、益田市内に所在する29の社会福祉法人の加入賛同を得て設立された「益田市社会福祉法人連絡会」の事務局として、役員会を開催するなど、適正な組織運営と事業推進に努めた。総会の開催については、本年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、書面決議とした。

(2) 社会福祉法人・福祉施設等との連携・協働による地域公益活動の推進

益田市社会福祉法人連絡会の重点事業に掲げて2年目となる「ふくしなんでも窓口」事業の実施に取り組んだ。市民にとってより身近な会員法人が運営する施設・事業所53ヶ所に相談窓口を開設し、市民の様々な悩みや困りごとを受け付け、解決に向けて、適切な支援機関へのつなぎや法人間の連携による支援など、初期相談に対応した。宣伝用チラシやのぼり旗の効果もあり、17件（前年度24件）の相談を受け付けた。本事業を通じて、加入法人、施設・事業所間の連携強化に努めた。

(3) 支えあいマスクバンク事業の継続実施

新型コロナウイルスの感染防止対策として必需品となったマスクの寄贈を募り、必要とする学校、福祉施設、市民等へ提供する「支えあいマスクバンク事業」を継続実施した。市民や関係機関・団体等の協力により、感染防止対策の徹底と「みんなで支えあい、助けあう福祉のまちづくり」に寄与した。寄贈枚数8,844枚、配布枚数6,953枚（前年度/寄贈枚数7,054枚、配布枚数3,091枚）

5. 本会の発展に向けた経営基盤の強化

(1) 組織統治体制の確立と機能強化

6月には、役員及び評議員の任期満了に伴う一斉改選が行われ、本会定款の規定に基づき、理事14名、監事3名、評議員28名が新たに選任され、会長に末成弘明氏、副会長に田中 敦氏、常務理事に寺戸紳児氏が再任された。市民に信頼される組織を目指して、役職員が一体となりスピーディーな法人経営に努めるとともに、ガバナンス機能の強化を図った。また、社協事業の効率的・効果的な推進のため、毎月1回、運営会議、支所連絡会議を開催するとともに、理事会（4回）、評議員会（2回）、監査会（3回）、評議員選任・解任委員会（1回）を開催した。3月には、経理業務等が関係法令及び経理規程に基づき適正に処理されているか確認するため、内部会計監査を実施した。そのほか、本会に寄せられた苦情を今後のサービスの質の向上につなげるよう、第三者委員（本所・美都・匹見担当各2名）による意見交換会を7月30日に開催した。本年度受け付けた苦情はなかった。

①理事会

	会議名・開催日	主要議題
1	第214回理事会 5月28日(金)	・令和2年度事業報告及び計算関係書類等の承認について（監査報告） ・令和3年度資金収支補正予算第1号の承認について ・次期役員候補者の承認について ・次期評議員候補者の推薦について ・第6回評議員選任・解任委員会の招集について ・次期評議員選任・解任委員会委員の選任について ・第126回評議員会（定時評議員会）の招集について
2	第215回理事会 6月25日(金)	・会長、副会長、常務理事の選定について ・顧問の選任について
3	第216回理事会 [書面審議]	・職員の人事異動について <理事会の決議があったものとみなされた日> 7月19日（理事全員の同意書と監事全員の確認書が到達した日）
4	第217回理事会 3月16日(水)	・令和3年度資金収支補正予算第2号の承認について ・令和4年度事業計画(案)及び資金収支予算(案)の承認について ・美都・匹見地域高齢者福祉施設給食調理業務委託契約の締結について ・経理規程の一部改正について ・事務局規程の一部改正について ・職員の給与及び退職手当規程の一部改正について ・就業規則の一部改正について ・嘱託職員就業規則の一部改正について

		<ul style="list-style-type: none"> ・パートタイマー就業規則の一部改正について ・育児・介護休業等に関する規程の一部改正について ・役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について ・職員の人事異動について ・第127回評議員会の招集について
--	--	---

②評議員会

	会議名・開催日	主要議題
1	第126回評議員会 (定時評議員会) 6月17日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告及び計算関係書類等の承認について(監査報告) ・令和3年度資金収支補正予算第1号の承認について ・次期役員(理事・監事)の選任について
2	第127回評議員会 3月30日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度資金収支補正予算第2号の承認について ・令和4年度事業計画(案)及び資金収支予算(案)の承認について ・役員及び評議員の報酬等に関する規程の一部改正について

③監査会

	監査種別・開催日	監査内容
1	決算監査 5月20日(木)	・令和2年度決算監査について
2	定期監査 11月24日(水)	・令和3年度上期監査について
3	随時監査 8月24日(火)	・特別養護老人ホームもみじの里現地監査について

④評議員選任・解任委員会

	会議名・開催日	主要議題
1	第6回評議員選任・解任委員会 6月14日(月)	・次期評議員の選任について

⑤苦情受付・解決の結果

苦情受付件数 0件(前年度7件)

(2) 持続可能な安定した財源確保と健全な財政運営

自主財源の確保を目的とする社協会費の募集は、コロナ禍の厳しい社会情勢により本年度も厳しい結果が予測されたが、市民の皆様をはじめ、各自治会、地区社協、福祉委員等のご理解とご協力により、総額としてはほぼ例年どおりの実績を維持することができた。一方、香典返しなどの善意寄附金については、年々減少傾向にある。

介護保険事業等における収入増への取り組みは、コロナ禍の影響を受け、引き続いて厳しいものとなったが、予算執行にあたっては、限られた財源の中で収入に見合った支出となるよう、経費削減に努めた。

本年度も益田市に対して、補助金や美都・匹見高齢者福祉施設指定管理料などの予算増額を要望したが、市の厳しい財政状況もあり、依然として財源確保は厳しい状況が続いている。

①社協会費

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
一般会費	16,571口	13,256,800円	16,750口	13,400,000円	17,023口	13,618,400円
賛助会費	226口	491,000円	267口	491,000円	226口	495,000円
特別会費	102口	570,000円	93口	510,000円	92口	515,000円
計	16,899口	14,317,800円	17,110口	14,401,000円	17,341口	14,628,400円

②善意寄附金

	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
香典返し	107件	4,135,000円	88件	3,713,000円	108件	5,760,000円

見舞返し	0件	0円	1件	10,000円	3件	260,000円
一般寄附	23件	900,666円	24件	2,010,149円	26件	892,829円
計	130件	5,035,666円	113件	5,733,149円	137件	6,912,829円

(3) 職員の人材確保・育成・定着の推進

職員の人材確保にあたり、本会ホームページへの求人掲載、ハローワークや島根県福祉人材センターへの求人登録、福祉・保育のお仕事相談会等への参加などを実施したが、求人に対し応募自体が少なく、本年度も欠員補充・人材確保には苦慮した。特に看護師や介護支援専門員などの有資格者の確保は年々難しさを増しており、職員の定着化に一層取り組む必要がある。

職員の育成については、外部研修や会議のほとんどがコロナ禍によりオンライン方式が定着していく中、人材の育成と定着化を目指して可能な限り研修会等へ参加させた。また、職場内研修により、職員のスキルアップと資質向上に努めた。法人内における、採用後1年未満の職員を対象とする「新任職員研修」については開催できたが、全職員を対象とする「職員全員研修会」は、密となることから本年度も開催を見送った。

そのほか、厚生労働省が新たに創設した「介護職員処遇改善支援補助事業」と「保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業」の補助金を活用するなど、職員の処遇改善にも積極的に取り組み、職員の定着化を図った。

○職員研修会

	研修名・開催日	研修内容
1	新任職員研修 6月23日(水)	講義 <ul style="list-style-type: none"> ・会長講話 ・法人の理念と方針、組織について ・地域福祉事業について ・副会長講話 ・就業規則、諸規程について ・あんしん生活支援センターについて 法人事業所見学（本所、美都・匹見支所）
2	職員全員研修会 (年2回)	年2回開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

(※上記施設・事業所に記載する職員数は、令和4年3月31日現在の人数)